

心の成長を感じます



2学期のはじめ、学校に1通の手紙が届きました。自転車に乗った大学生がスカートがタイヤに巻き込まれ身動きできなくて困っていたところ、下校中の御野小学校の子ども3人が、「大丈夫ですか。」と声をかけて助けてくれたそうです。おかげでスカートは傷つかずにタイヤから外れ、その学生さんは無事に帰れたとのことでした。手紙には心からの感謝の言葉が書かれていました。

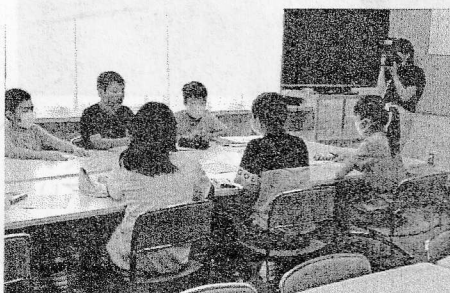


草取り集会でも、「ここに入れて。」「ありがとう。」

先日の全校朝会で子どもたちに「親切」という話をしました。相手の立場を思いやり、あたたかい心で接することの大切さは、道徳の授業でも繰り返し学んでいます。ただ、それをこのように実際の生活場面で、たまたま通りがかった人に対して実行に移せるというのは素晴らしいことです。相手の状況を感じ取り自分のできることをする、御野っ子の力を感じます。こうした心は一朝一夕には育ちません。学校では、帰りの会の中で一日の学校生活を振り返る場面があります。友達にしてもらってうれしかったことを次々に発表する姿が見られます。最初は「机から落ちた消しゴムを拾ってもらってうれしかった。」という身の回りの小さな出来事からやがて精神的な励ましや支援まで、子どもたちは発達段階に沿って様々な「親切」を繰り返し感じとり学んでいきます。もちろん学校だけでなく、ご家庭や地域で大切に育まれてきた長い年月があればこそその心の成長だと感じます。「一人の人間として大切にされれば、子どもは思いやりのある人間になる。」(ドロシー・ロー・ノルト) 子どもたちの心に目を向け、一人一人の存在を大切にすることが、子どもたちの成長につながるのだと、改めて感じたエピソードでした。

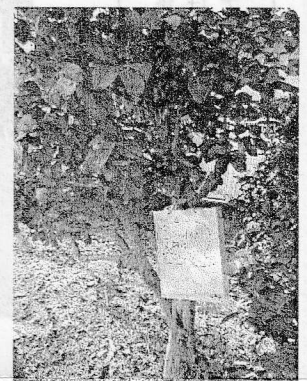
コロナの影響で例年通りとは行きませんが、2学期は大きな行事が続きます。子どもたちそれぞれの成長をしっかりと見守り支援していきたいと考えています。

新聞で紹介されました



取材の様子、カメラにドキドキ

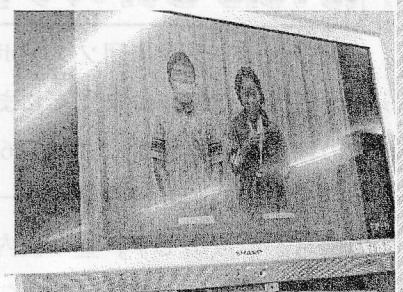
先月もお知らせしましたが、御野小では運営委員会をはじめ、いろいろな委員会の活動に様々な工夫が見られます。このコロナの制約がある中、どうしたら学校生活がより楽しくなるか、みんなが笑顔になれるか、しっかり考えた取組を行っています。9月30日付の山陽新聞に、そうした子どもたちの活動が取り上げられて記事になりました。写真で紹介されたのは運営委員の話し合いの様子ですが、校内のいろいろな場所にクイズが貼ってあったり、校内放送で行事の振り返りや呼びかけがあったりと、活発に活動が続いています。「コロナだからできない。」ではなく、「今だからできる。」とアイディアを出し合う活動を通して、みの子たちの主体性がさらに伸びていく感じが感じられます。



校庭の木々にはクイズが



こんなに大きな記事になりました



美化委員会は放送で草取り集会の振り返り